

全国 保健師長会 だより

平成28年度
第1回理事会報告

議事報告

4月23日(土)にホテルリステル新宿にて第1回理事会が開催されました。冒頭に新会長の青柳玲子氏から、熊本地震の被災地において不眠不休で活動している保健師等に対しての励ましの言葉と、今年度は「地域に責任をもつ」「統括的保健師の配置促進」「人材育成」「会員拡大」の4つのキーワードで活動を推進していくとのあいさつがありました。議事の主な内容は、次のとおりです。

1 今年度の活動テーマは、「『社会の課題に向き合う保健師活動の展開』―保健・医療・福祉をつ

ており、現在、全国から約60チームが応援に入っていることや、現地でエコノミークラス症候群をはじめ、ノロウイルス感染等の可能性があること、さらには熱中症など公衆衛生上の課題が予測されており、保健師による避難者や避難所の情報収集が予防対策につながる。そのためシステムづくりが必要であり、保健師が作成する日報を本部の判断ルートに乗せられるような情報の流れの分析・検証が課題であると述べられました。さらに、平時から各自治体で支



講演する厚生労働省健康局健康課保健指導室長の島田陽子氏

平成28年度

第1回全国保健師長会理事会 および講演会報告

全国保健師長会 会長 青柳玲子

なぎ安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現」で、(1)専門性の高い公衆衛生看護活動の強化 (2)ブロック、支部活動の強化 (3)中長期的な展望に立った被災地における保健師活動の可視化および各自治体における災害時対策の取り組みの促進 (4)会員数の拡大への4項目を柱として活動します。

2 最重要活動目標は、(1)保健師活動の可視化および質の向上への取り組み (2)情報発信の強化 (3)災害保健活動の推進 (4)市町村の会員拡大に向けた取り組みの4点を最重要目標としました。

3 ブロック研修会については、活動テーマを「地域における保健師の保健活動に関する指針」

援体制づくりを行っておくことが大切であり、被災地支援を行うことで、各自治体の防災計画に生かすようにしていただきたいとのことでした。

続いて、保健師の人材育成については、研修等の必要性の根拠となる法律はあるものの、系統的に実施されていないことから、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」が開催され、平成28年3月31日に最終とりまとめの報告書が完成したとお話がありました。検討会では、自治体に所属する保健師の能力養成が、自治体の保健福祉施策において重要であることを組織全体で認識し、保健師の体系的な人材育成のしくみづくりが重要であることが強調されつつ、検討が進められた経過がありました。

人を育てていくしくみをつくるためには、まず保健師の仕事の見える化を図る必要がありますが、そのしくみをつくるためのツール(成果物)として「自治体保健師の標準的なキャリアラダー」があります。このツールは個々の保健師の能力の成長過程を5段階で整理

を活用した保健師活動の可視化と質の向上に向けた取り組み」とし、「全国保健師長会活動方針の説明」「研究報告」「専門性の高い公衆衛生看護活動の強化につながる研修」を内容に、各ブロックで取り組んでいただきました。い旨の説明がありました。

4 今年度の調査研究事業については、「災害後の保健活動における現状と課題」「新任保健師の成長に係る要因」「県型保健所の保健師活動のあり方に関する研究」「地区組織との協働による健康寿命の延伸への取り組みと評価」「住民と取組む校区別地区診断と健康づくりの展開事例に関する研究」の5件が採択されており、

5 その他、各分会・委員会・ブ

したのですが、これにより保健師の能力がいまどの段階にあるのか、だれにでもイメージすることができ、個々の評価や育成に使用できるだけでなく、事務職を含め組織全体に見てもらおうことで、保健師の役割を理解してもらいたいとのことでした。そして、キャリアパスをつくるプロセスそのものが保健師の人材育成につながるため、人事部門を巻き込みながら検討する体制づくりが重要であるとのことでした。

また、最終報告では国の役割および自治体間や関係機関との連携の健康課題を把握しても、それを研究的に取り組む時間や人材がないたため、看護系(公衆衛生部門)の大学(教育機関)と研究的取り組みで連携することや、都道府県による市町村支援においても、各市町村がどのような人材育成をしているかをていねいに把握すること、保健所の果たすべき役割が明確になることから、一緒に取り組みながら人材育成につなげていきたいと話されました。

当日のパワーポイント資料は、



理事会であいさつをする青柳会長

ロック報告、推薦委員会からの提案、平成29年度の国への要望について等の説明がありました。

講演会報告

理事会後の講演会では、「地域保健をめぐる国の動きとリーダーに期待すること」と題して、厚生労働省健康局健康課保健指導室長の島田陽子氏より、講演をいただきました。

初めに、熊本地震による被災地への対応に保健師の派遣調整をし

当会のホームページに掲載しますのでご覧ください。(文責＝広報委員会)

東日本大震災における保健師の体験記「希路」ができました

平成25～26年度の2年間、全国保健師長会の調査研究として「東日本大震災における保健師の体験記」の募集を行い、73編の体験記が寄せられました。この体験記「希路」は、被災地の保健師と支援側の保健師の思いをつなぐとともに、後世の保健師に体験を伝えるという重要な意味が含まれています。勤務中には住民や仲間に見えるせない心の葛藤や、支援に来てくれた保健師、仲間、また住民に対する感謝の気持ちがつづられており、胸と目頭が熱くなる内容ですが、どんな場面でも力強く活動する頼もしい保健師の姿を感じ取れる体験記となっております。「希路」は、すでに各支部に配付しておりますので、お読みになりたい方は、各支部長へお問い合わせください。(文責＝福島県郡山市保健所斎藤恵子)